

PAT-NO: JP404245596A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04245596 A
TITLE: TRANSACTION INFORMATION PROCESSOR
PUBN-DATE: September 2, 1992

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
AKE, YASUNARI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME SHARP CORP
COUNTRY N/A

APPL-NO: JP03011207
APPL-DATE: January 31, 1991

INT-CL (IPC): G07G001/12, G06F015/21 , G06K017/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To save labor and time at preparing a housekeeping book.

CONSTITUTION: A writing device 11 to make transaction information stored in a storage medium 4 is connected to an ECR 2 installed in respective kinds of shops. Besides, a processor 3 to which a reading device 18 to read the transaction information from the above mentioned storage medium 4 is connected is installed in a customer's house. The transaction information can be stored in the single storage medium 4 even at shopping at plural different shops by unifying the specification of the kind, a storage form or the like of the transaction information to be written in the storage medium 4. Thus, the transaction information can be stored in the single storage medium 4 even at shopping at the plural different shops. Besides, the handling time of the input operation of the transaction information to the processor 3 can be saved and the preparation and the control of a housekeeping book based on the transaction data becomes easy.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-245596

(43)公開日 平成4年(1992)9月2日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 7 G 1/12	3 6 1 Z	8921-3E		
G 0 6 F 15/21	3 1 0 Z	7218-5L		
G 0 6 K 17/00	L	8623-5L		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平3-11207

(22)出願日 平成3年(1991)1月31日

(71)出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72)発明者 明 康德

大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ
株式会社内

(74)代理人 弁理士 西教 圭一郎 (外1名)

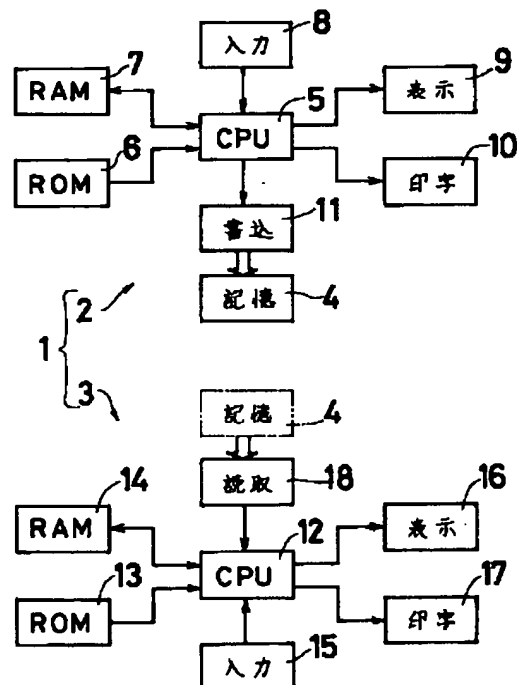
(54)【発明の名称】 取引情報処理装置

(57)【要約】

〔目的〕 家計簿作成の際の労力および手間を省く。

〔構成〕 各種店舗に設置されるE C R 2に、取引情報を記憶媒体4に記憶させるための書込装置11を接続する。また、顧客の自宅などには前記記憶媒体4から取引情報を読出すための読取装置18が接続された処理機3を設置する。記憶媒体4に書込む取引情報の種類、記憶形式などの規格を統一することによって、複数の異なる店で買物をした場合であっても、取引情報を同一の記憶媒体4に記憶させることができる。

〔効果〕 複数の異なる店で買物をした場合でも単一の記憶媒体4に取引情報が記憶される。また、取引情報の処理機3への入力操作の手間を省くことができ、取引情報に基づく家計簿の作成および管理が容易になる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 取引された商品に関連する取引情報を登録し、かつ該取引情報を記憶する比較的小形の記憶媒体が着脱可能に設けられ、該記憶媒体にも前記取引情報を記憶させる登録機と、前記記憶媒体から取引情報を読出し、読出した取引情報の登録および取引情報に基づく予め定める処理を行う処理機とを含むことを特徴とする取引情報処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、各種店舗に設置される電子式金銭登録機（ECR）やPOS（Point Of Sale scanning）端末装置によって登録された各種の取引情報を顧客が容易に利用することができるようにした取引情報処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 図5は、従来例を説明するためのフローチャートである。ステップb1では、たとえばECRによって売上情報の登録が行われ、ステップb2では登録された売上情報がレシートに印字される。このレシートが顧客に渡される。

【0003】 顧客は前記レシートをたとえば自宅に持ち帰り、ステップb3においてレシートの整理を行い、ステップb4において家計簿などに記録し、またパーソナルコンピュータを用いて家計簿を作成している場合にはキーボードから各種の情報を入力する。ステップb5では、家計簿に記録された各種の情報またはパーソナルコンピュータに入力された各種の情報に基づいて統計処理などを行う。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 上述のようにレシートに基づく家計簿管理の場合、買物をした店舗に設置されているECRやPOS端末装置の種類によってレシートの印字内容および印字形式が異なるため、家計簿への記録あるいはパーソナルコンピュータへの入力処理が複雑になるという問題がある。

【0005】 本発明の目的は、各種店舗などに設置されるECRやPOS端末装置などの登録機によって登録された各種の取引情報を、顧客が容易に利用することができるようにした取引情報処理装置を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、取引された商品に関連する取引情報を登録し、かつ該取引情報を記憶する比較的小形の記憶媒体が着脱可能に設けられ、該記憶媒体にも前記取引情報を記憶させる登録機と、前記記憶媒体から取引情報を読出し、読出した取引情報の登録および取引情報に基づく予め定める処理を行う処理機とを含むことを特徴とする取引情報処理装置である。

【0007】

2

【作用】 本発明に従えば、登録機は各種店舗に設置され、取引された商品に関連する取引情報、たとえば商品名、購入金額、数量などを登録し、かつ、これらの取引情報を比較的小形の記憶媒体に記憶させる。この記憶媒体には、たとえばICメモリカード、メモリカード、磁気カード、あるいはフロッピーディスクなどの磁気記憶媒体などが選ばれる。処理機は、たとえば顧客の自宅などに設置され、前記記憶媒体から取引情報を読出して登録し、かつ登録した取引情報に基づく予め定める処理、たとえば統計処理、登録した取引情報の印字および表示などを行う。

【0008】 このように取引情報は比較的小形の記憶媒体に記憶され、処理機によって取引情報を読出して登録することができる。これによって、従来のようにレシート紙を整理して家計簿へ記録したり、またはパーソナルコンピュータに入力したりするといった手間を省くことができる。また、処理機は登録された取引情報に基づいて統計処理や取引情報の表示または印字なども行うことができ、家計簿管理などを容易に行うことができる。また記憶媒体は比較的小形の構成であるため携帯が容易であり、また反復利用が可能であり便利である。

【0009】

【実施例】 図1は、本発明の一実施例である取引情報処理装置1の基本的構成を示すブロック図である。取引情報処理装置1は、各種店舗に設置される登録機である電子式金銭登録機（ECR）2と、消費者（顧客）の各家庭に設置される処理機3とを含んで構成される。ECR2は、登録された取引情報を記憶媒体4に書き込み、処理機3は、取引情報が書き込まれた記憶媒体4から取引情報を読出す。

【0010】 ECR2は、たとえばマイクロプロセッサなどを含んで構成される中央演算処理装置（以下、CPUと略す）5を備えており、CPU5にはECR2の各種動作を制御するプログラムなどが記憶されたリードオンリメモリ（ROM）7が接続されるとともに、ランダムアクセスメモリ（RAM）6も接続される。RAM6には、取引金額、取引数量、などの各種取引情報が記憶される。

【0011】 CPU5には、入力装置8、表示装置9および印字装置10が接続される。入力装置8には、数量、金額、PLU（Price Look Up）コード、JAN（Japanese Article Number）コードなどの各種コードを入力するための置数キー、ECR2の動作状態の切換えや各種機能を選択するために操作する複数のスイッチが設けられ、取引情報の入力が行われる。表示装置9は、α-ニューメリック管や液晶表示装置などで実現され、入力装置8から入力された各種データなどを表示する。印字装置10は、顧客に渡すレシートの印字や個々の登録内容を逐次的に記録するジャーナル印字などを行う。

【0012】 またCPU5には、前記記憶媒体4に売上

3

情報を記憶させるための書込装置11が接続される。

【0013】処理機3は、一般的なパーソナルコンピュータと同様の構成および同様の機能を有している。処理機3は、たとえばマイクロプロセッサなどを含んで構成される中央演算処理装置(CPU)12を備えており、CPU12には処理機3の各種動作を制御するプログラムなどが記憶されたリードオンリメモリ(ROM)13が接続されるとともに、RAM14も接続される。RAM14には、前記憶媒体4から読出された取引情報などが記憶される。

【0014】CPU12には、入力装置15、表示装置16および印字装置17が接続される。入力装置15は、置数キーやアルファベットキーなどの複数のキースイッチが配列されて構成され、処理機3の各種の入力や処理機3の各種機能を選択する際に操作する。表示装置16は、たとえばCRT(陰極線管)や液晶表示装置などで実現され、入力装置15から入力された各種データやCPU12による各種演算の処理結果などが表示される。印字装置17は、ドットプリンタやサーマルプリンタなどで実現され、記憶媒体4から読込まれた取引情報や、CPU12の演算処理結果などが印字される。

【0015】またCPU12には、記憶媒体4から売上情報を読出すための読取装置18が接続される。

【0016】図2は、記憶媒体4の一例であるICメモリカード21の構成を示すブロック図である。ICメモリカード21は、CPU22、ROM23、RAM24および接続端子25を含んで構成される。ROM23には、接続端子25を介して入力される取引情報のRAM24への記憶処理を行う際に使用するプログラム、および取引情報のRAM24からの読出処理を行う際に使用するプログラムなどが記憶されている。CPU22は、ROM23から必要なプログラムを読出し、RAM24内に設定されているワークエリアを利用して上述の記憶処理および読出処理を制御する。

【0017】図3は、ICメモリカード21の外観を示す斜視図である。ICメモリカード21は、一般に使用されているキャッシュカードやクレジットカードと同じ大きさ、たとえば54mm×85mmに選ばれ、厚さはたとえば0.76mm~1.3mmに選ばれる。ICメモリカード21の一方表面には、複数の接続端子25が配置されており、図示しない他方表面にはICメモリカード21が取引情報記憶用に用いられていることを使用者に認識させるための文字データなどが印刷されている。

【0018】ICメモリカード21に代えて、たとえばスタティックRAMなどを用いるデータ記憶のみを行ういわゆるメモリカードを用いてもよい。また、キャッシュカードやクレジットカードのような磁気カードを用いてもよい。さらに、フロッピーディスクなどの磁気

4

記憶媒体を用いてもよい。

【0019】図4は、取引情報処理装置1の動作を説明するフローチャートである。ステップa1ではECR2において取引情報の登録が行われる。ステップa2では、ECR2によって取引情報の記憶媒体4への書込みが行われる。ここで記憶媒体4に書込まれる情報として、①商品名、②その商品の家計簿上での分類項目名、③単価、④数量、⑤単一商品の合計金額、⑥まとめて買物をしたときの全体の合計金額などが記憶媒体4へ書込まれる。

【0020】ステップa3では、処理機3の読取装置18によって記憶媒体4からの取引情報の読取りが行われ、ステップa4では読取った取引情報の登録、すなわちRAM14への記憶処理が行われる。ステップa5では、ROM13に予め設定されている統計処理用プログラムなどに従って、家計簿の統計処理を行う。

【0021】以上のように本実施例によれば、取引情報は記憶媒体4に記憶されるので、異なる店舗に同一のECR2を設置しておけば、個別の記憶媒体4に複数の店舗における取引情報が記憶される。また、直接記憶媒体4から取引情報を読出して処理機3内のRAM14に記憶させることができる。したがって、従来のように店舗毎に異なるレシートを整理して、操作者自身が入力装置15から各種の情報を入力する手間を省くことができ、便利である。

【0022】したがって、家計簿の作成および家計簿の管理などを容易に行うことができる。

【0023】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、取引情報は比較的小形の記憶媒体に記憶され、処理機によって取引情報を読出して登録することができる。これによって、従来のようにレシート紙を整理して家計簿へ記録したり、またはパーソナルコンピュータに入力したりする手間を省くことができる。また、処理機は登録された取引情報に基づいて統計処理や取引情報の表示または印字なども行うことができ、家計簿管理などを容易に行うことができる。また記憶媒体は比較的小形の構成であるため携帯が容易であり、また反復利用が可能であり便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例である取引情報処理装置1の基本的構成を示すブロック図である。

【図2】記憶媒体4の一例であるICメモリカード21の構成を示すブロック図である。

【図3】ICメモリカード21の外観を示す斜視図である。

【図4】図1に示す取引情報処理装置1の動作を説明するフローチャートである。

【図5】従来例を説明するためのフローチャートである。

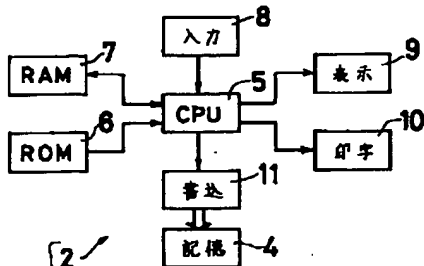
5

6

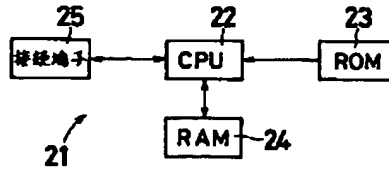
【符号の説明】

- 1 取引情報処理装置
2 電子式金銭登録機 (ECR)
3 処理機
- 4 記憶媒体
11 書込装置
18 読取装置
21 ICメモリカード

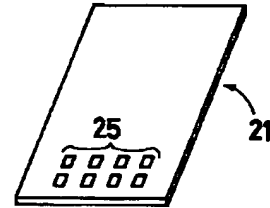
【図1】



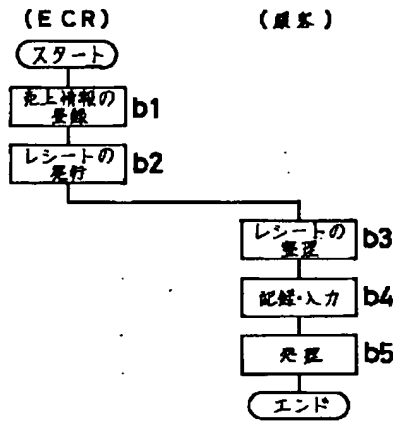
【図2】



【図3】



【図5】



【図4】

